

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600537		
法人名	社会福祉人希望の里		
事業所名	グループホームむつみ 1F		
所在地	〒059-1265 苫小牧市字樽前159-198		
自己評価作成日	平成22年10月29日	評価結果市町村受理日	平成23年4月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173600537&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173600537&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年3月10日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた土地である苫小牧において、穏やかに生活を送っていただけるようになっています。自然に恵まれた環境であることから、日々静かな環境の中で周辺を散歩したり畑を作り花を植えたりと、季節を感じていただけるよう工夫を行っています。お一人お一人の思いを大事にし、健やかな生活を過ごしていただけることを目標にスタッフ一同取り組んでいます。建物については皆様にくつろいでいただけるよう畳の間を設けています。また、トイレを複数箇所ご用意し、身体的なケアが必要な方も安心してご利用いただけるよう広めのトイレを設けています。ご家族や知人とゆっくり過ごしていただけるよう近隣にゲストハウスを設け、宿泊についても対応可能です。入居者様のみならずご家族様にも安心していただけるよう今後も工夫を行って行きたいと思っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、長年、母体法人が知的障がい者施設を運営する中で地域貢献を考え、隣接する形で平成14年に設立された。樽前山の麓に位置し、オートキャンプ場や公園が近隣にあり豊かな自然の中で暮らせる環境にある。山の恵みや草花に親しみながら利用者が楽しめるよう日常的に外出を試み、季節を感じている。何よりも利用者の思いを大切に、寄り添う姿勢でケアに努めており、利用者は明るく穏やかに過ごしている。敷地内には法人の建物と知的障がい者施設があり、相互に協力できる体制にある。また、医療機関とも契約に基づく協力関係を構築し、利用者や家族の安心につなげている。さらに、利用者家族が宿泊できるゲストハウスを設け、遠方の家族が来訪しやすいよう配慮している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに提示し、またスタッフ名札に入れいつでも確認できるようにしている。	「やさしく、あたたかく、ぬくもりのある生活」を支援する理念を掲げ住みなれた地域で穏やかに暮せるよう、職員は常に理念カードを携帯しケアを振りかえりながら実践に取り組んでいる。会議の中で理念を確認しながら共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接施設との連携を行なっている。(災害予防、行事など)	近隣に民家が少なく交流が難しい地域ではあるが、散歩時に地域住民と挨拶を交わしたり、法人の夏祭りに販売する野菜や山菜を求める住民や歌や踊りを披露するボランティアとの交流、大学の盆踊り見学など、行事を通して交流を図っている。	日常的な地域との関わりは少ない。町内会長のみならず地域住民や大学生、ボランティアの協力を積極的に勧め、日常的な交流を通して利用者の生活が豊かになることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談の体制を整えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容を各スタッフへ会議などを通じて伝えている。	運営推進会議は、利用者家族、町内会長、市及び地域包括支援センター職員と事業所職員が参加し、概ね2ヶ月毎に開催している。会議では、事業所の状況や行事報告を行い、委員からの意見やアドバイスを得て事業所全体で検討し運営に活かすよう取り組んでいるが、町内会長も多忙で参加の機会が少なくなってきた。消防署員は避難訓練に合わせ参加している。	地域密着型事業所として、地域住民の協力が大きな力であることを踏まえ、複数の町内役員や消防団等へ参加を働きかけ、様々な意見やアドバイスが反映されるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進に参加していただいたり、またなにかあれば連絡・相談の体制を整えている。	市の福祉課職員が運営推進会議に参加したり、ケースワーカーが定期的に訪問している。また、市主催の研修を通して相談やアドバイスを受ける機会が多い。事業所の状況報告や課題がある時は、電話連絡や直接市を訪れ、常に連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて身体拘束に対する理解を深め、拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する外部研修を受けた職員が講師となり、内部で伝達講習を行い全職員で共有を図っている。職員は何が身体拘束に当たるか理解しており、自らのケアを振り返りながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて虐待に対する理解を深め、また会議の場などにてスタッフ間で虐待についての話し合いを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて議題として取り上げ、また日々スタッフ間にて議論を行なうようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご説明を行い、また必ず不明な点などについて確認を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加いただくほか、来訪時や電話での問い合わせにも応じている。	定期的な便りを通して利用者の状況報告を行いながら、家族の来訪時や運営推進会議で意見、要望を聞くように努めている。また、来訪が少ない家族には電話で希望を聞き、運営に活かすよう心がけている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場やそれ以外の時間でも議論を行なうようにしている。	職員は日々のケアの中で意見が言いやすい雰囲気となっている。意見や課題がある時は、その都度相談し、月1度の全体会議で話し合い運営に活かすよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その都度スタッフより相談できる体制を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議にあわせ内部研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム協会の研修会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントから始まり、早期に信頼関係を築くことができるよう関わりを持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に相談を受ける体制を整備している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に状況を伺うようにし、適宜相談を受ける体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にご本人とお話し、暮らしを送っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に相談を行いながら日々の暮らしを送っていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所をお伺いし、外出を行っている。	本人の馴染みの理・美容室や食堂に出かけたり、友人が来訪するなど、それまでの暮らしの関心に配慮した支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	サークル活動を通して、また日常的なことを通し、スタッフが仲裁しながら良い関係が保てるよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	押し付けにならない範囲でその後のことを確認させていただいたり、相談体制を整えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日々の会話の中からご本人の希望の把握に努めている。	日々の会話や関わりの中で本人の思いを把握するよう心がけている。困難な場合は本人の表情や行動、仕草から思いや意向を察し、ケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力を依頼し、今までの生活歴の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご様子を伺うことで正確なアセスメントを心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のアセスメントや、来訪時もしくは電話などを通してご家族など関係者から情報を得るようにしており、それを踏まえ介護計画の作成を行っている。	基本的には3ヶ月毎に介護計画を作成している。家族の来訪時や電話等で家族の希望を把握すると共に、利用者個々の担当者が日々のケアの中で得た情報を基にサービス担当者会議で話し合い、介護計画作成担当者が作成し家族に提示している。変化時には随時見直している。	介護計画作成の基となる個人記録は、健康状態のほか、利用者のより良い暮らしのための課題や必要な事柄は何かを導き出すために、毎日詳細に記録することが望まれる。アセスメントの充実、モニタリングやカンファレンスでの情報を共有し、利用者個々の思いや意向を反映させた介護記録の充実を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録の確認及び口頭にて引継ぎを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に対して必要なサービスを提供できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や近隣の公園へ出かけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外にもご本人の希望にそって医療機関への受診に対して支援を行っている。	本人や家族の希望に沿ってかかりつけ医の受診となっている。利用者の受診や送迎を事業所が全面的に支援しており、常に医師との情報交換ができる体制にある。状態に応じて家族が付き添い、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護へ伝え、その都度指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から医療機関との連携を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を行っている。	重度化や看取りに関する指針を作成し、事業所として可能な対応について利用開始時に説明している。状態に合わせて本人、家族、医師、看護師、職員と共に段階的に話し合い方針を共有できるよう、職員に対する看取り研修も検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。また法人内において救命救急講習を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。隣接施設と合同で消防計画を作成している。	災害時のマニュアルを作成し、緊急通報システムを設置している。隣接する知的障がい者施設と合同で年2回、消防署の協力の下避難訓練を実施している。地域とは町内会長を通して災害時の協力を依頼している。	夜間の災害時には地域の協力が欠かせないため、積極的に地域に働きかけ日常的な馴染みの関係を構築し、協力体制を強化することが望まれる。また、安全な避難場所の確保と家族への周知、水や食料、防寒対策を含めた備蓄品の整備を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人を尊重するよう心がけている。	利用者一人ひとりのプライドを大切に、状況に合わせた対応や言葉かけを行い、信頼関係が築けるよう努めている。排泄の誘導もさりげなく羞恥心に配慮している。個人情報となる記録は決められた場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりを通し信頼関係を深めることにより、ご本人の思いを汲み取ることが出来るよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の要望を叶えることができるよう日々努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望に応じ自由に行っていただいている。また状況に応じお手伝いを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材に関しては彩りや形に配慮している。また入居者様に協力をいただき用意を行っている。	法人の栄養士が一人ひとりの嗜好を把握し、畑で取れた野菜も取り入れながら献立を作成している。食材も豊富に彩りを考えバランスの取れた献立となっている。会話も多く笑いながら楽しく食事を取っている。利用者は力に応じて後片付け等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状況に合わせた支援を行うよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	清潔に保っていただけるよう、その都度見守りや口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極カトイレにて排泄していただけるよう支援を行っている。	おむつを使用する利用者も多いが、一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中は声かけで促し、自立への支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂取していただいたり、食物繊維をとっていただくなどしている。また運動・散歩をお誘いしたり、かかりつけ医への相談を行うようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は曜日を決めているが、柔軟に対応できるよう希望を伺いながら、個別での対応を行えるようにしている。	基本的には週3回の入浴日を設けているが、希望に沿って入浴やシャワー浴ができるようにしている。入浴を好まない利用者には清拭を行い、清潔が保てるよう支援するなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の要望を受けいれながら、ご本人のペースを大事にするなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医や病院・薬局との連携を密にし、服薬して頂くとともに、日々健康状態の把握を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人に満足していただけるよう配慮し、過去の経験や習慣などを継続していただけるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別での対応を実施し出かけられたり、またご家族へ相談を行い、外出の機会確保に向け取り組んでいる。	自然豊かな環境で、日常的に散歩や買い物、馴染みの喫茶店に行くなど、楽しんで外出する機会が多い。夏場は畑や花畑を散策したり近隣のオートキャンプ場や温泉までドライブを楽しみ、冬には市のスケート祭りを見学するなど、変化のある生活になるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とも相談をし、現金をを持ってらっしゃる方もおり、外出時にはご自分で買い物を楽しまれている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時にホームの電話を使っていたり、また自由に手紙のやり取りをされている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時期や状況に応じ飾りつけなどの工夫を行っている。また入居者様の希望に応じるようにしている。	玄関正面に居間と食卓スペースがあり、対面式に台所を設けている。内部は回廊式となっており、中庭に面して壁の上部は全面がガラス張りですべてに光が入り、一部にスタンドグラスを配置し、採光に配慮した造りとなっている。居住空間は広く、小上がりの畳スペースも設けている。壁には季節を感じる手づくりの装飾があり、ゆったりと過せるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったり過ごすことができるよう和室を用意している。また写真を展示し思い出話をしながら眺めていただくことができるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースに限りはあるが、なじみのある家具などを自由に持ち込んでいただけるようにしている。	居室には思い出の家族写真や使い慣れた家具、テーブルなど調度品を置き、今までの生活の延長となるよう支援している。手づくり作品や鉢植えを飾り、居心地良く過せるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりを設置している。またスタッフの心構えとして過度な介護や支援を行わず、その方に合ったケアを実施する事としている。		